母子保健セミナー２０００ in 大阪

岩室　紳也（厚木保健所）

はじめに

平成６年度にスタートした市町村母子保健事業のあり方に関する研究の成果を発表し，新たな母子保健事業の展開に資するセミナーを平成12年2月7日大阪市にて開催した。全国から母子保健関係者約350が参加し，活発な議論が行われた。以下にその議論の要旨を紹介する。

基調講演「ヘルスプロモーションと母子保健」

厚生省児童家庭局母子保健課　藤崎清道課長

母子保健課長になって，課内で，地域保健をどうするのかの議論が希薄になっていたことに驚いた。生殖医療など特殊な課題に忙殺されており，地域の母子保健事業がどうなっているのかを把握できずにいた。母子保健事業は系統的に行われてきたので，もう大丈夫という過信があったのかもしれない。

都道府県型保健所では，市町村が母子保健事業どころでなくなってきていることに気になりながら，かといって，保健所に市町村の情報が入ってこなくなってきたことに懸念を抱いている。

20世紀の母子保健の成果として，母子保健統計の指標は良くなった。事業も丁寧に実施されていたが，これらが21世紀も担保されるのだろうか？小児科医も小児医療水準の低下を危惧していた。小児科希望者の減少，小児病棟の閉鎖（不採算の問題）が問題になっている。

また，新たな課題が出現し，身体の健康問題から心の健康問題がクローズアップされてきた（専業主婦の育児不安，虐待の問題，子供のメンタルヘルスの問題)。思春期保の健康問題（性感染症，薬物中毒，ダイエット）も今日的な課題であろう。

まだやり残している課題として，妊産婦死亡率，小児の事故死亡，ＳＩＤＳ等が挙げられ，個別に取り組みが必要な領域である。

昨年末に新エンゼルプランが発表されたが，この中に母子保健（周産期医療ネットワークづくり，小児救急システム）も盛り込まれたが，もっと総合的なビジョンの必要性を感じた。そこで，「健やか親子２１」の策定に着手した。２月３日に第１回の検討会を開き，10月までに発表したいと考えている。

健やか親子２１の主要課題について

母子保健事業の枠組みの中だけでは，解決が困難なものであった。検討会の答申に基づいて事業の予算化をすればいいという訳ではなくなった。５，10年かけて，解決する，あるいは解決できる仕組みを作ることが必要であり，関係者との連携が不可欠になってきている。

１）思春期の保健対策の強化と健康教育の推進

２）妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援（妊娠できない女性へのカウンセリングも含めて整備が必要）

３）子供の体の健やかな発達を図るための環境整備

４）育児不安の解消と子供の心の安らかな成長の促進

ヘルスプロモーションと健やか親子２１

ヘルスプロモーションは「健康づくりを進めるための技術的, 体系的方法論とその背景にある理念であり，　環境整備とコミュニティエンパワーメントが２つのエッセンスである」　母子保健でこのヘルスプロモーションをどう適用するのかが課題である。

健やか親子２１に基づいて，地方自治体に何をどうし

なさいという指示はしない。ビジョンを提示し，どう実践するかは地方で考えていただきたい。中核的な展開方法として，自主グループづくりの支援（コミュニティエンパワーメント），環境の整備（心の健康づくりを支援できる環境）も重要であろう。健診や保健指導のあり方についての見直しも必要になろう。自主グループづくりの支援につながるような事業の展開になっているかの検証が必要である。

パネルディスカッション

「母子保健計画をどう推進するか～事例から学ぶ～」

１．大阪府茨木市の母子保健事業

中村悦子（大阪府茨木市）

「計画づくりは手段である」

母子保健計画では事業の移管がスムーズに行くように考えた。健診の受診率が低い地域はその改善のために，個別通知を行った。健診を住民のニーズを探る場であると考えた。大阪府がやってきた母子保健事業の低下を招かないように考えた。13年度までの計画のほとんどを11年度までに達成できた。茨木市では財政基盤が整っていた。保健所や助産婦会，医師会などの協力が得られた。計画策定の課程で培われた人づくりが推進にも有効だった。子育て支援も力を入れた母子保健計画にした。住民のニーズとしては子育て環境づくりが必要だった。児童福祉の担当部局からは最初抵抗があったが，２年後にエンゼルプランに新たな事業として母乳相談を開始した。健診での相談内容として多かった。助産婦会の協力も得られた。

５%の未受診者のフォローを確実に行ったところ，この中から虐待死が出たこともあり，徹底的に追跡しようということになった。

計画策定を通して保健所と市との協力関係ができた保健婦が力を付けることになった。母子保健情報の一元化をあと２年かけて取り組みたい。

推進できた要因としては，手段として計画づくりを位置づけたこと。計画が予算やマンパワー獲得のための作戦として機能した。スローガンだけの保健計画にしないことが重要。あるいは，国の指示通りの内容にしないことである。大阪府が母子保健については高い理念を掲げていたことが刺激になった。。数値や率にとらわれずに，達成できる事業を盛り込んだ計画にした。

計画の策定から推進まで，市民が手伝ってくれた。関係機関からの情報も得られるアンテナを高くしていた。

Q：いつから，こうした考え方に到達したのか？

A：事業の移管を仕方ないと早期に頭を切り替えた移管調整会議を平成８年度に９回程度開催した。他の課や関係機関との協力が得られるように課長がお願いに行った。

２．沖縄県宜野湾市の母子保健事業

宮城吉孝（沖縄県宜野湾市）

「住民主体の事業展開」

宜野湾市は19平方キロ，人口85000人，市の中央に普天間基地がある。過去10年間で人口が18%増，出生率は14，高齢化率の小さな市としてベスト20に入っている。計画策定のプロセスは従来の問題対処型ではなく，地域づくり型保健活動を用いて，18回もの委員会を開いた。全庁的な取り組み計画策定を行った。母子保健計画の策定プロセスの中で子育て応援本の必要性が指摘され，子育て応援本「ぽけっと」が作成されることになった（5000部作成した　A5で172ページ　予算82万円）。

母子保健計画の進行管理は年間２回推進会議を開催している（５月と10月）。

Q：計画策定に抵抗はなかったか？

A：コザ保健所から計画策定の意義やヘルスプロモーションについて講義を受けた。住民のニーズを考える

際の考え方を学ぶことができ抵抗はなかった。

３．島根県大社町の母子保健事業

愛媛県西条中央保健所　新山徹二

「保健所の支援によるヘルスプロモーションの推進」

大社町は人口 16600 人　保健婦６名で保健所と連携しながら進めてきた。大社町の母子保健事業の特徴として，第二次大社町保健計画の中に，母子保健計画が組み込まれていること，計画の進行管理を健康福祉推進協議会の下部組織である母子保健専門部会が行っていることが挙げられる。島根県の保健所と市町村の関係は車の両輪として機能していたので，保健所のスタッフとともに企画立案しその評価もともに行っている。保健所と定例のスタッフ会議を頻繁に行い，重点地区活動を一緒に行ってきた。住民の声を吸い上げる取り組みを行ってきたが，最近の保健所と市町村の関係は微妙になってきており，市町村にとって頼りになる保健所であり続けることが望まれるが，保健所が元気がなくなってきた。市町村の老人保健事業が見えなくなっている保健所も多い。保健所が次年度の事業計画を考える際に市町村の状況を把握できてない。

大社町の一押しの事業は「歯を大切にしよう」で，健康な生活習慣づくりをめざすのが最終的な目標（目標年は平成 22 年度）であり，事業をモニターにしようという仕組みができている。

渡部保健婦（大社町）：保健所との共同作業の歴史があり，ルーチンワークでも一緒に相談しながら進めてきた。事業を進める上でのビジョンを保健所が与えてくれた。保健婦は技術職だけでなく，行政職である。施策づくりができなければ駄目であると先輩保健婦にも言われてきた。

４．大分県玖珠町の母子保健事業

愛媛県保健福祉部　櫃本真一

「先進地に見る Showmanship」

（行って驚いた光景！）

玖珠町への訪問なのに，まず，保健所に連れて行かれた（保健所で乳児健診を行っていた）。保健所の課長が「市町村の信頼を得るように努力をしている」と発言した。市町村と保健所がしっかり手を握っている。お互いの事業と役割を市町村，保健所の保健婦が理解していた。応接机の上に白い紙を広げ，保健所保健婦と市町村保健婦が事業を書き出した！人材育成を意識した業務展開ができており，ベテランの保健婦が若い保健婦を育てていた。「期待している」というプレッシャーがうまく作用している。母子保健計画策定にも目的意識あり（玖珠町が母子保健計画を策定した理由），人を増やしたかったから　やりたい事業があったから策定したのだと。

玖珠町にも悩みがあり，事務職の課長が理解してくれないときにどうするかが問題。住民が課長を変えていくことがポイントであり，課長に「住民が言ってくれたから事業化できた」と住民への挨拶の中で言わせている。このことは住民主体の町づくりに重要であり，住民が町を動かせるようになってきていることに自信を持っている。

保健所への期待として，「やってみて，やらせて見せて，誉めてやらねば，市町村は動かない」ので，エイズ対策や精神保健など保健所がやっていることをもっと教えて欲しい。

客観的な評価が重要だが，町に視察に来る人が評価してくれる。自分たちが当たり前だと思っていたことが，素晴らしいのだと気づく。どこの町でもこうした当たり前だが素晴らしい取り組みをしているはず。

Q：ルーチンワークが情報提供の機会である？

A：地域の住民が欲しい情報を提供できるのが自治体の保健婦である

ディスカッション

ルーチンワークの重要性 → 足元を固めて新規事業へ

司会：ルーチンワークの時にどんなことを意識しているのか？　フロアの玖珠町の麻生保健婦さんにうかがいましょう。

ルーチンワークは情報収集と提供の場

　―住民と共に考え育む姿勢が大切―

麻生：住民一人一人にとってどうあったら良いのかを考えて仕事をしている。行政にできることの限界も感じながら，住民と一緒に解決方法を考えている。住民と一緒に考える中で情報を収集したり，得られた情報を再び住民に返すようにしている。

ルーチンワーク（事業）から施策へ

中村：母子保健事業だけでも 280 回ある！！４ヶ月健診の担当は誰というように担当性をしいている。定期的に問題点を話し合う機会を持っている。２年目の若い保健婦が４ヶ月健診後に母乳について相談が多いことを指摘した。助産婦により新生児訪問でも継続訪問の理由に最も多かった。そこで，母乳相談事業が始まることになった。担当の保健婦に企画書を作成させた。婦長が納得できるデータを付けて，説明させた。母子保健の担当者は若い保健が担当しているが，子育てを経験しているのは１人だけだった。大阪府からの人事交流でベテランに１人来てもらい，若い人を鍛えた。

ルーチンワークから得られた情報の活用

司会：保健婦が集めた情報を係長としてどう活かしているのか？

宮城：ミーティングの中で，意識して仕事をしている保健婦からは伝わってくる。保健婦の提案で，母親教室の託児サービスに保母を確保した。

司会：宜野湾市の仲里保健婦さんに子育て応援本「ぽけっと」の作成のプロセスを紹介してもらえますか

仲里：ドラエモンのポケットをイメージして作ることになった。２年前に那覇市が作った子育て情報誌がとても好評だったこともある。母子保健計画策定と同時進行で作成が始まった。子育てサークル waiwai キッズクラブに声をかけてボランティアを募った。新聞も用いて，公募したところ 16 名が集まった。行政が関わることで，主観的な部分を押さえて，客観性を重要視したが，母親に喜んでもらえる情報誌になることを心がけた。ボランティアが子供を抱えて，取材をしてくれた。母親同士がとても親密になり，情報交換が増えた。「ぽけっと」を作ったことは手段でしかない。

住民参加ってどういうこと？

　　住民の役割，住民主体とは

　　住民自身の意識が変わる

　　住民の力を引き出すこと

司会：ボランティア代表の藤井さんから一言

（セミナー参加旅費をコザ保健所が用意してた！！）

藤井：在宅保健婦であるリーダーである知念さんから声をかけられた。自分も転勤族で，こんな情報誌が必要だと考えていた。２歳の子供を抱えての制作作業は大変だったが，細かいところは自分たちが望むようにさせてくれたことがありがたかった。自分たちがやっていることの意義や行政の考えがわかるようになった。他のお母さんを誘おうという気持ちになった。自費出版ではなく，行政が一緒に作ってくれたことが嬉しかった。地域と各家庭のとの距離が縮まってくるのではないか。

住民がパートナーという意識の変化が生まれている

　　―押し付けから吸い上げへ―

司会：住民の力が 50 から 100 にもなることを教えてくれた事例である。

櫃本：行政は住民に良かれと思ってきた（迷える子羊を救おうと考えていた）が，現在の流れは，これを大きく変えることが必要になってきた。住民が適切なことをやろうとしたことを支援できる行政であることが重要であり，主体は住民である。住民であるが，行政

の橋渡しをする「セミプロ」を増やすことも重要であろう。藤井さんには，市長にファックスででも送って，保健婦たちを誉めてあげて欲しい。

司会：市民が主役という発想を持った上司が必要だと思います。茨木市の森脇次長さんいかがでしょうか。

森脇：市長にも今回の発表の件を話したら，もっと母子保健をやろうということになった。これからは子供が重要であると。詳しいことは専門家の意見を聞こう，事務職はその根回しをしよう。

司会：富山県氷見市の塚口保健婦さんに氷見市の取り組みを紹介して欲しい

塚口：ヘルスボランティア 700 名が活発に活動している。かつては行政のお手伝いと言うことで，活発ではなかった。ボランティアがいきいき活動できることを目標に取り組んだ。保健婦の抱える問題をボランティアと一緒に考えることにした（10 年間）。母子保健計画の策定において，ボランティアの考えていることを施策化した。計画策定に加わることでいきいき活動し始めた。今も策定委員のメンバーが定期的に集まって話し合いをしている。これからは，子育て中の母親や父親に入ってもらうようにしている。５年我慢すれば，住民ボランティアが育つのではないか。

ヘルスプロモーションって何？（それぞれの役割）

司会：では専門職の役割は何でしょうか？茨木市の調査に行かれた和歌山県湯浅保健所の森岡先生・・

行政マンである専門職は戦略家たれ

森岡：茨木市の訪問調査に行って驚いたことは保健婦が自分で予算書を作成していることだった。根拠となる資料も自分で用意していた。８月中旬には予算書ができ，年末に向けて根回しをきちんとしていた。

司会：玖珠町は首長を洗脳しているらしいが・・・。玖珠町の日隈保健婦さんいかがでしょうか。

日隈：根回しにおけるそれぞれの役割を明確にしている。誰が，どんな資料を持って誰に根回しをするのかを検討している。保健所も住民も根回しをする上で重要な役割も果たしている。専門職の意識が変わりつつある（厚生省が狙う人材育成の成果？）。

新山：黒子になって動く人，表舞台で動く人，両方が大切であり，人づくりが重要であろう。感性が豊かでも行動に移せない人も少なくない。気づいて，自分で動く部分と人を動かす部分とがわかる。

森脇：保健所も三師会も人がやっているのだから，人がやっているから熱意があれば変えられる。保健婦は課長に自分たちがどんなに素晴らしいことをしているかをＰＲしよう。

柳（大阪府高石支所）：森脇課長は係長時代にもこの課にいたが，こうした事務職の専門性を考えることも重要であろう。玖珠町の思春期保健の取り組みはとても素晴らしいと思うが，育委員会や学校との連携がうまくとれることが重要。健やか親子２１も文部省と一緒にやるのかをはっきりさせるべきでは・・

司会：玖珠町が考えるヘルスプロモーションとは？

日隈：母親学級・父親学級を経て，出生した子が思春期になり，また，親になる。こうしたサイクルを考えると思春期保健が当然重要になる。ヘルスプロモーションはライフサイクル全体を視野に入れたものであるべきであろう。

連携，役割分担の重要性

櫃本：玖珠町が一押しの事業として思春期保健セミナーを挙げてきたが，この問題意識の先見性が素晴らしい。現場での学校との連携が困難と言われるが，現場で困難なことを中央で調整できるはずがない！　現場こそこうした調整ができるはずである。

藤崎：文部省や労働省との連携は確かに難しい

市町村ではかなりうまく行けるという話も聞いているので，市町村では是非，どんどんやって欲しい。健やか親子２１では中央省庁間での連携をテーブルに載せている。こうした素晴らしい事例を紹介する役割を是

非したい。

司会：性教育をする際には，是非，岩室をご利用ください（笑い）

保健所の役割は？

司会：今までにも出てきたがあらためて保健所の役割についての議論は？訪問調査を行って，外部が視察に行くといい評価ができることを感じた。保健所がどうしたら，こうした役割を果たせるのだろうか

新山：こうした訪問調査をすべての市町村にするといいねと言われた。外の目で誉めてもらうことの大切さがここにあるのだと思う。

やってみて，やらせて見せて，誉めてやらねば，市町村は動かない

司会：訪問調査が終わる頃には，市町村の担当者の目が輝いてくる。先ほど櫃本さんがおっしゃった「やってみて，やらせて見せて，誉めてやらねば，市町村は動かない」が重要なのですね。

研究班総括

司会：最後に愛知県稲沢保健所の澁谷先生に今年度の研究班の総括をお願いしたい。

澁谷：自分たちが気づいていない優れた点を誰が気づいて引き出してあげるか。保健所がその役割を果たすことが重要であろう。訪問調査した事例は，市町村も保健所も住民のことをよく知っている。改めてルーチンワークが必要であることを感じている。既にある事業から発想することが重要であろう。次の計画の見直しに向けて取り組むことになるが，その際には，住民参加がキーワードであろう。サービスを提供する側の視点から住民の視点に変わったかが重要。住民の視点による事業の評価が重要であろう。

　計画策定を通じて変わったこととして，母子保健関係者の意識が変わり（成長した），住民組織を育てながら，育てられていた。住民参加が不可欠であること，ビジョンがあることの重要性が理解された。保健事業の質が変化し，広がりや深みのある事業へと変化していた。

司会：パネルディスカッションのねらいであったキーワード「ルーチンワークの重要性→足元を固めて新規事業へ」，「住民参加ってどういうこと？」，「ヘルスプロモーションって何？」，「保健所の役割は？」はそれぞれの事例を通してご理解いただけたでしょうか。

　このディスカッションを踏まえて全国で母子保健計画が積極的に推進される事を願ってディスカッションを終了したいと思います。本日はパネラーの皆さん，フロアの皆さんお疲れさまでした。